

上海電気学院短期留学定期報告 1 : 3月18日(月) 上海に到着

きのくに線が線路上の不審物で10時過ぎに不通になったため、2名の学生の関空到着が少し遅れましたが、全員無事にフライトを終え、17:00(現地時間)頃に上海電気学院に到着しました。数名の学生、先生方と会食をしたあと、学内で使えるプライベートカードをもらい学内スーパーで買い物をし、1日目は終了となりました。



関西国際空港から出発



学内スーパーで買い物

上海電気学院短期留学定期報告 2 : 3月19日(月) 学内ツアーと歓迎会

上海2日目は快晴で暖かく、とても過ごし易い一日でした。午前中は工学研究センターの施設見学では3Dプリンタの説明を受け、一人の学生が実際にデータを編集して3Dプリンタによる模型作成を行いました。午後からは図書館を見学させていただき、大学院入試自習室で試験1年前から受験勉強をしている電気学院の学生たちの姿に、学生たちは驚いていました。また、学内で最も高い時計塔の最上階にも登らせていただき、そこからの風景を大変楽しんでいました。

また、2日目のメインイベントである歓迎会では、これまで経験したことのないフォーマルな雰囲気にも緊張しながらも、学生たちは一人ずつ英語または中国語で自己紹介を行っていました。



3Dプリンタを操作する学生



歓迎会後の学生集合写真

上海電気学院短期留学定期報告 3 : 3月20日(水) 体験授業と学生交流会

短期留学3日目もたくさんの活動が予定されていた。午前中は、大学内で中国の伝統文化である水墨画と太極拳に挑戦した。先生方が丁寧に説明してくださり、学生たちにとっては初めての経験ながら、楽しく取り組むことができた。

午後は上海航海博物館を視察し、中国の海洋貿易の歴史や、造船技術などについて学んだ。

夕食後、学生交流会が開催された。上海電機学院大学から約40名の学生が参加し、本学の学生と互いに歌を披露したり、遊びを教え合ったり、両国のお菓子を食べながら会話を弾ませたりして有意義な時間を過ごした。

上海電機学院大学の教職員のみならず、学生ボランティアの協力によって本日も大変充実した1日を過ごすことができた。



海電気学院短期留学定期報告 4 : 3月21日(木) 上海市内観光

上海留学4日目は上海市内観光でした。上海電気学院から上海市内まではバスで高速道路を使っておよそ1時間半と少し離れています。市内到着後すぐに東方明珠電視塔にのぼり、地上263メートルにある展望台から上海市内の一望を楽しみました。展望台から降りるとあいにくの雨となりましたが、午後からは城隍廟および南京東路での自由行動を満喫するとともに、学内食堂以外の食堂に学生たちだけではじめて入り、注文して夕食をとる経験もしました。最後は、昼に登った東宝明珠電視塔の対岸から見える夜景に感動し、一日を締めくくっていました。



東方明珠視塔からの景色



上海市内の夜景を楽しむ

上海電機学院短期留学定期報告 5 : 3月22日 (金) 中国の文化にふれる

上海電機学院留学も折り返し地点に来ました。午前中は中国文化のとして元旦、春節、端午の節句の起源や、時代とともに変化するお祝いの様式についての講義を受けました。なかでも中国ではネットの発達により、春節におくっていた挨拶状（日本でいう年賀状）が、ほぼすべて Wechat（日本での Line のようなもの）で送られるようになっており、さらにお年玉も WechatPay を利用してキャッシュレスで渡されていることにとっても驚いていました。

午後からはドラゴンボートと呼ばれる複数人で漕ぐボート体験をしました。タイコの合図に合わせて、オールを動かして、大学内から流れ出ている河を漕ぎ進み、いい汗を流しました。その後、中国の伝統的料理である餃子を電機学院の学生たちと作り、おいしくいただきました。学生たちも緊張が取れてきたのか、お互いに会話が弾み楽しい時間となっていました。



ドラゴンボートに乗船完了



餃子づくり体験



出来た餃子をみんなで味見

上海電機学院短期留学定期報告 6 : 3月23日 (土) 蘇州その1

上海電機学院から約 170 km 離れた蘇州へ1泊の観光に出発しました。2時間半のバスの旅を終えて、まず初めに到着したのは、中国四大庭園の一つで世界遺産でもある拙政園でした。休日という事もあり、園内は大勢の人であふれかえっていましたが、明代に作られた庭園を学生たちは熱心に見て回っていました。地元の名物魚料理でお腹を満たした後は、蘇州博物館で蘇州の歴史を見学し、平江路、山塘街では街並みと買い物を楽しむなど充実した1日を過ごしました。



拙政園



平江路でデザートタイム

上海電機学院短期留学定期報告 7 : 3月 24 日 (日) 蘇州その 2

蘇州 2 日目は、「虎丘」と「寒山寺」を訪れた。虎丘は、紀元前 500 年代に蘇州に都城を築いた「呉王闔閭」が葬られた丘である。また、虎丘には、961 年に完成したレンガ造りの「雲岩寺塔」があるが、今では地盤沈下により斜塔となっている。日本語ガイドの呉さんの説明を聞きながら、学生たちは間近でそれを観察することができた。

寒山寺は、詩人の張継が「楓橋夜泊」を詠んだことで有名な禅宗寺院である。ここには、鐘楼があり、日中平和友好条約締結後、毎年大晦日に中国人と日本人がともに鐘をつき、両国の友好の象徴となっているという。

蘇州の歴史的建造物や伝統的な街並みを見ながら、中国の歴史の長さを実感し、圧倒された 2 日間であった。午後には上海電機学院大学へと帰路についた。



上海電機学院短期留学定期報告 8 : 3月 25 日 (月) 学内での交流

本日は 1 日中大学内で過ごし、たくさんの学生たちと交流することができた。午前中は、唐の時代の漢服を試着させてもらった。上海電機学院大学には漢服クラブがあり、そこに所属する学生が漢服の特徴を説明し、着付けてくれた。漢服姿のまま、内輪と扇子に絵を描いたのだが、美術クラブのボランティア学生が絵の構図や色使いのアドバイスをくれたので、素敵な作品ができあがった。

午後は、体育館でミニ運動会を行った。バドミントンや縄跳びに加え、中国の遊びも教えてもらった。綱引きの日中学生対決などを行い、ともに汗をかきながら友情を深めることができた。

また、今日はたまたま学内で毎年開催されている「第 14 回 Foreign Language Festival」の開会式であり、夕食の後、私たちも参加させてもらった。中国人学生のパフォーマンスのレベルの高さに目を丸くしながらも、和高専の学生も負けじと歌を披露し、会場は大いに盛り上がった。



上海電機学院短期留学定期報告 9 : 3月26日(火) 学内実習、会社見学、修了式

ついに短期留学の最終日を迎えた。午前中は、上海電機学院の閔行キャンパスを訪れ、1、2年生の学生とともに、電気駆動実験と機械部品の研磨の実習を行った。閔行キャンパスは上海電機学院のキャンパスの中で一番古いということだが、3階建ての食堂は広くてきれいで、学生が自由に使えるオシャレなスタジオなどもあった。

午後は、上海花王を訪問し、工場見学をさせていただいた。上海花王は1993年に作られ、上海工場には約500人の従業員が働いているそうだ。日本人駐在員の金井部長が、本校の学生からの質疑に答えてくれ、花王中国の製品や駐在員生活について知ることができた。

夕方には、臨港キャンパスにおいて、送別会と修了式、送別宴会が催された。上海電機学院の副校長と本校の留学団長の奥野先生からのスピーチに加え、両校の学生が感想を述べた。また、本校の学生一人ひとりに副校長からの修了証書が手渡され、先生方からは手土産などもいただいた。送別宴会では、両校の学生が別れを惜しむようにいつまでも語り合っていた。

短期留学中、学生たちは、伝統文化、最新技術、学生生活など、様々な観点から、目まぐるしく変わりゆく現代の上海を体験することができた。最初は日本との違いにばかりに目が行きがちだったが、それよりも似ているところ、同じところが多いということを実感するようになった。今回、学生たちが見つけた交流のつぼみが、将来どこかで花開くことを期待している。



上海電機学院短期留学定期報告 10 : 3 月 27 日 (水) 上海を出発

ついに別れの朝がきた。朝 7 時に上海の学生ボランティアが何人も寮のロビーに集まってくれ、学食で上海最後の朝食を一緒に食べた。学生たちはお互いに手紙などを交換し、別れを惜しんだ。何人かの学生は浦東空港にも見送りに来てくれた。泣きながら「謝謝！」と「再会！」を繰り返しながら、私たちは出国した。

とても寂しい気持ちで飛行機に乗り、日本に帰国したが、関空でスマホをネットにつなぐと、Wechat に上海の学生たちからのメッセージが入っていて、学生たちの顔がほころんだ。私たちは繋がっている、ということを実感した。上海で育んだ両校学生の友情は、物理的に離れたとしても、消えることはないだろう。

